

令和5年度 河川砂防技術研究開発公募 地域課題分野(河川生態) 研究開発テーマ
 <一般研究:中間評価結果>

テーマおよび概要		研究代表者名	評価	審議結果
テーマ	流況変化に対する河川－海洋沿岸生態系の応答:狩野川水系における解明と生態系保全策	静岡大学 塚越 哲	b	令和5年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	年間降水量が2000mmを超える伊豆半島を集水域とする狩野川を対象に、大規模出水が河川中・下流域と河口、および河口沿岸の生態系に与える影響を中流に設けられた放水路の開閉との関連を併せて明らかにする。			
テーマ	大規模攪乱後の生態系回復プロセスとそれを担保する河川構造:2つの時間軸(平成29年7月九州北部豪雨と1720年6月享保水害)に着目したアプローチ	九州大学 鬼倉 徳雄	b	令和5年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	短期だけでなく長期的な経過時間を含めた生態系回復プロセスを、各種の生態的特性を加味しながら解明すること、また、激甚化した災害レベルでも生態系回復のソースとなりうる空間構造とその複雑性を流程ごとに特定する。			
テーマ	河川における生息地連続性の重要性－河川生態系への影響評価および保全方策	長野大学 箱山 洋	c	令和5年度 一般研究(継続) として採択する。
概要	河川生態系における攪乱や河川工作物の存在が、生息地の連続性、さらには個体群・群集の健全性・持続性に与える影響を明らかにする。また、生物の移動・分散に配慮し災害対策モニタリングの機能を持つInternet of Things(IoT)型の魚道・生物避難場所・小水力発電に関する技術開発や、保全と治水のトレードオフ(一得一失)評価手法の開発を行い、合理的な河川管理行政に資する。			

評価の凡例

- a: 引き続き研究を推進する
- b: 指摘事項に留意のうえ、引き続き研究を推進する
- c: 指摘事項を踏まえ、引き続き研究を推進する
- d: 優れた研究ではなかった(研究の打ち切り)